

## 平成13年度 文化財パトロール調査概報

### 1 調査経過

浪岡町には史跡浪岡城跡、史跡高屋敷館遺跡をはじめ現在70遺跡が登録されている。八甲田山麓及び梵珠山から連なる丘陵地帯に多くの遺跡が存在し、主に果樹園として利用されている。

これまで町内においては、緊急調査として東北縦貫自動車道路に伴う発掘調査、空港アクセス道路青森・浪岡線建設に伴う発掘調査、国道7号浪岡バイパス及び津軽高規格道路五所川原・浪岡線建設に伴う発掘調査が行われ、史跡整備のものとして浪岡城跡の調査が継続してきた。

国道7号浪岡バイパスに伴い高屋敷館遺跡も保存が決定し、今後はバイパス開通により沿線の開発に注意が必要となる。また、りんご等の果樹園として利用されている遺跡についても改植や土壤の天地返しによる遺構破壊が危惧され、住民への埋蔵文化財包蔵地の周知をしなければならない。

今年度のパトロール調査は、梵珠山から南側へ連なる丘陵地西側一帯に広がる遺跡、浪岡川右岸の河岸段丘上に続く遺跡、天狗平山の麓、浪岡川と正平津川に挟まれた舌状台地上に位置する遺跡、正平津川左岸の河岸段丘上に位置する遺跡、八甲田山麓から西側へ連なる丘陵地一帯に存在する遺跡など31遺跡を対象とし、下記の日程と体制で実施した。

### 記

調査回数 5回 8月23日・9月10日・9月21日・11月8日・11月12日

調査機関 浪岡町教育委員会生涯学習課

生涯学習課長 常田典昭

生涯学習課文化班長 工藤清泰

生涯学習課文化班主任主査 木村浩一

生涯学習課文化班主査 小田桐勝昭

青森県文化財保護指導員 山内弘喜

調査の原因 青森県文化財パトロール事業

採集遺物 繩文土器、土師器、須恵器など

遺物の保管 浪岡町中世の館収蔵庫

### 2 パトロール調査をした遺跡（カッコ内は遺跡番号）

#### ① 梵珠山から南側へ連なる低平丘陵地西側一帯に広がる遺跡

下下平遺跡（29-004） 農道樽沢・下石川線と吉野田旭線の交差点付近に位置する。現在は果樹園として利用されており開発等の可能性が少ない地域で現状が維持されていくものと思われる。沢や溜池等で画されていないため範囲を特定するのは難しい。野菜畑から平安時代の土師器片を3点表採することができた。

**螢沢遺跡（29-008）** 通称「ササワラコ」・「タケハラコ」と言われている縄文中・後期の遺跡である。標高40mほどの丘陵南側斜面の場所から縄文土器や磨製石斧が出土したと記録されている。現在は果樹園、野菜畠として利用されており現状が維持されていくものと思われる。

**旭（1）遺跡（29-005）** 吉野田新溜池の西側に位置する。現在は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。しかし一部ではりんご樹の改植が行われており、その場所から縄文後期の土器片、平安時代の土師器片を表採することができた。りんご樹を改植する際の注意が必要である。

**旭（2）遺跡（29-006）** 吉野田三太溜池南東側に位置する。遺物の表採はできなかつたが平安時代の遺跡であると言われている。現在は果樹園、野菜畠として利用され開発等の可能性が少ない地域であり現状が維持されていくものと思われる。

**中平遺跡（29-007）** 熊沢溜池の北側から螢沢遺跡手前の沢までの広い範囲に位置し、遺跡の上に吉野田集落が形成されている。現在は宅地、学校、果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われるが、住宅の立替え等には注意が必要である。

**寺屋敷平遺跡（29-059）** 吉野田新溜池東側に面し南北は沢地に画されている広い範囲である。現在は果樹園として利用され開発等の可能性が少ない地域であり現状が維持されていくものと思われる。伝説では奈良時代の梵珠千坊のうちの一つの寺跡と言われているが、今では伝説を裏付けるものは何もない。

**永原遺跡（29-010）** 熊沢溜池土手の県道浪岡・原子線西側の丘陵地に位置する。現在は宅地、果樹園、神社として利用されており現状が維持されていくものと思われる。縄文後・前期の円筒式土器が出土したと記録されている。

**上野遺跡（29-011）** 樽沢宝溜池西側の丘陵地に位置し縄文中・後期、平安時代の遺跡と言われている。現在は宅地、果樹園、野菜畠として利用されており現状が維持されていくものと思われる。野菜畠から平安時代の土師器、須恵器片を数点表採することができた。遺跡内の道路を拡幅する都市計画道路構想もあり、拡幅部分については発掘調査が必要である。

**熊沢溜池遺跡（29-009）** 熊沢溜池に半島状に突き出たところに位置する。現在は果樹園、野菜畠として利用されており現状が維持されて行くものと思われる。父親の畠も遺跡内にあり昭和20年代の頃井戸を掘った際に壺が出土し、故葛西善一先生に届出たと聞いている。また、長いものを収穫する際に平安時代の土師器、須恵器片がまとまった状態で出土している。

**山神宮遺跡（29-013）** 樽沢山神社付近から西側に広がる緩斜面に位置する。神社境内地を整地する際に池を掘ったところ縄文晩期の土器片が多量に出土したと言われている。現在は宅地、果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。野菜畠から平安時代の土師器、須恵器片を表採することができた。

**銀館遺跡（20-051）** 別名尾林館・杉銀館とも言われており銀集落北側の丘陵地に位置する。ここは津軽平野を一望に見渡すことのできる高台で、浪岡城守護として北畠氏の家臣由

町弥右衛門の居城があったとされているが、現在は果樹園、野菜畠、共同墓地として利用されており城館としての範囲を特定することは困難である。野菜畠から縄文土器、平安時代の土師器、須恵器片を表採することができた。

**杉田遺跡（29-058）** 銀葦溜池の西側から熊野宮周辺に位置する。現在は果樹園として利用され開発等の可能性も少ない地域であり現状が維持されていくものと思われる。野菜畠から平安時代の土師器片を少量表採することができた。

**大林遺跡（29-015）** 銀館遺跡の北側に隣接する。現在は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。沢や沼等で画されていないため範囲を特定するのは困難である。野菜畠から平安時代の土師器片を少量表採することができた。

**長溜池遺跡（29-014）** 長溜池の東西に広がる緩斜面に位置する。東側は宅地、病院、墓地として利用されているが、近年は宅地化が進んでいる地域であり埋蔵文化財包蔵地の周知を図らなければならない。西側は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。

## ② 浪岡川右岸の河岸段丘上に続く遺跡

**松山寺遺跡（29-025）** 野菜畠として利用されている場所から平安時代の土師器片を表採することができた。また、高台から見下ろすと茶色の土と黒土が混ざりあったところが3ヶ所ほど確認でき竪穴住居跡があったと考えられる。

**羽黒平（3）遺跡（29-019）** 美人川伝説のある羽黒神社境内も含まれる。平成6～7年に発掘したところは美人川公園として整備されている。現在は宅地等になっているが空港アクセス道路からも離れている場所であり、開発等の計画もなく現状が維持されていくものと思われる。

**加茂神社遺跡（29-021）** 史跡浪岡城跡新館地区東側に隣接する場所であり浪岡城と関連があるものと考えられる。現在は宅地、神社として利用されており現状が維持されていくものと思われる。

**羽黒平（1）遺跡（29-017）** 縄文、平安時代の遺跡として知られており、東北縦貫道路、県道青森・浪岡線空港アクセス道路建設により発掘調査が行われている。今年度のパトロール調査中に重機による土取り（浪岡町五本松字平野11の4・11の10）が行われているのを発見したが概に土中深く掘られていて遺構が壊された痕跡が認められる。現場から平安時代の土師器、須恵器片を3点表採することができた。遺跡内を空港アクセス道路が通っておりこの地域は今後も開発が予想されることから埋蔵文化財包蔵地の周知を図る必要がある。なお、平成14年度は開発等による試掘調査依頼が3件出されている。

## ③ 天狗平山の麓浪岡川と正平津川に挟まれた舌状台地上に位置する遺跡

**春日社遺跡（29-035）** 天狗平山の麓、正平津川右岸の河岸段丘上に位置し源常平遺跡へと続く。果樹園、野菜畠として利用されており現状が維持されていくものと思われる。また、

遺跡内に春日の小祠が祭られている。

**天狗平遺跡（29-028）** 縄文中・後期の遺跡として登録されている標高174mの天狗平山の頂部に位置する。伝説では長慶天皇陵墓とされていて昭和11年には「長慶天皇波岡山陵」確認調査が行われている。大正時代に石棺、短刀、小壺、土器が出土したと記録されている。頂上まで登るには藪道を1時間以上歩かなければならず、今回のパトロールは遠景を写真撮影しただけである。来年度以降にも是非自分の目で確認してみたい遺跡である。

**源常平遺跡（29-027）** 史跡浪岡城跡新館地区の向かい側に位置している。古くから城館があったとされている場所で現在でも空壕を確認することができる。空壕の端から波状文四耳壺の完形品が出土し13世紀頃の陶器で資料的価値の高いものとして浪岡町文化財に指定されている。東北縦貫道路建設に伴う発掘調査で新たに空壕が確認された。今は城館としての面影はないものの地形的には浪岡川と正平津川に挟まれた断崖になっており要害の地であったことをうかがわせている。現在は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。

#### ④ 正平津川左岸の河岸段丘上に位置する遺跡

**浪岡崎（1）遺跡（29-023）** 正平津川左岸の河岸段丘上に位置し遺跡の上に北中野集落が形成されている。現在は宅地、果樹園等に利用され現状が維持されていくものと思われる。金光上人の墓や浪岡城と関連する御緒太を持つ広峰神社が存在する。

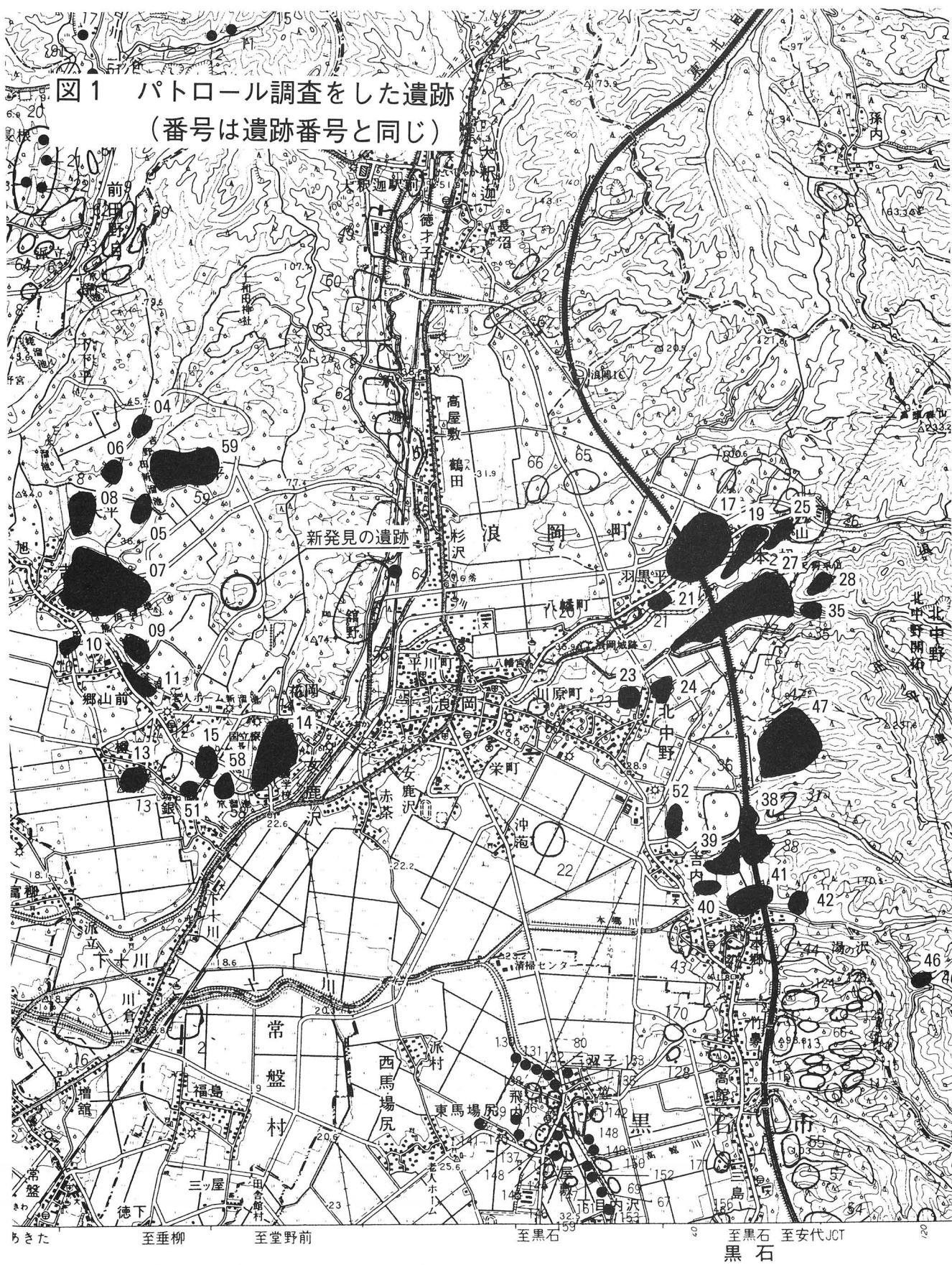
**浪岡崎（2）遺跡（29-024）** 浪岡崎（1）遺跡の東側に隣接しこの場所も遺跡の上に北中野集落が形成されている。現在は宅地、果樹園等に利用されており現状が維持されていくものと思われる。水田と畑の間にある用水路の縁から縄文時代の遺物が多く採集されたと記録されている。

#### ⑤ 八甲田山麓から西側へ連なる丘陵地一帯に存在する遺跡

**王田館遺跡（29-047）** 中世の城館として登録されているが、昨年の確認調査では場所・範囲が特定できなかった場所である。今年度のパトロール調査で遺跡地図に記載されている場所より沢一つ北側であることが判明した。遺跡の背後に230m前後の山脈が続き広大な屋敷型の平城であったと推測されるが、野菜畠から少量の縄文土器、平安時代の土師器片を表採しただけで中世の城館として証明することはできない。現在は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。

**北畠館遺跡（29-052）** 浪岡北畠氏が最初に入部した地であると言われている。水田より一段高い所に数郭構えていたものと推定される。現在は濠跡と思われる所は農業用水の堰として利用され、郭の部分は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。  
**吉内遺跡（29-039）** 吉内川左岸の標高30~50mの段丘上に位置する。館跡とも言われているが濠や土塁等を確認することはできなかった。現在は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。

図1 パトロール調査をした遺跡  
(番号は遺跡番号と同じ)



1:50,000 青森西部

A horizontal scale bar with numerical markings at 1000 m, 0, 1000, 2000, and 3000.

**杉ノ沢遺跡（29-038）** 吉内遺跡の東側の丘陵地に位置している。遺跡を分断する形で東北縦貫道路が通っており道路建設に伴う発掘調査が行なわれている。その他は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。

**中屋敷遺跡（29-040）** 本郷小学校東側の低平丘陵地に位置する。一帯は水田より一段小高い地形になっており郭状の様相を示しているように感じられる。現在は果樹園、野菜畑に利用されており現状が維持されていくものと思われる。

**田ノ沢遺跡（29-042）** 本郷川右岸の丘陵地に位置する。開発等の可能性が少ない地域であり、現在は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。しかし一部ではりんご樹の改植が行われている所があり、今後は改植をする際にも注意が必要とするため埋蔵文化財包蔵地であることを周知しなければならない。

**篠原遺跡（29-041）** 本郷集落北東の丘陵地に位置する。遺跡内を東北縦貫道路が通っており道路建設に伴う発掘調査が行なわれている。西側斜面は果樹園として利用されており現状が維持されていくものと思われる。

**牧ノ沢遺跡（29-046）** 本郷ダム右岸の標高80mの丘陵地に位置する。現在は果樹園、山林として利用され開発計画の可能性が少ない地域であり現状が維持されていくものと思われる。記録では縄文早期の尖底土器が出土したとされている。

### 3 新発見の遺跡

文化財パトロール調査で遺物の表採中、農作業をしていた人と遺跡のことで話をする機会があった。本人所有地のりんごの木を抜根した後、雑草を処理するためにトラクターで数回耕したところ、細かく砕けてはいるが土器片が出てきたとのことであった。早速現場に駆け付け数分で平安時代の土師器、須恵器片を多数採集することができた。この場所は低平丘陵地になっており熊沢溜池上流部分のY字型の沢地をなしている。両向かい側も地形的に見て包蔵地であると思われるが、今回は遺跡として確認することはできなかったので、遺物を採集した範囲を登録するにとどめた。所在地は浪岡町大字樽沢字上野地内であり遺跡名を付けるとすれば小字の上野遺跡とするのが通常であるが、大字郷山前字上野に存在する上野遺跡と区別するため、樽沢上野（たるさわうわの）遺跡として登録した。

### 4 浪岡町遺跡台帳の整備状況

青森県文化財保護課より埋蔵文化財包蔵地台帳の様式変更の指導を基に、1項目は埋蔵文化財包蔵地台帳の記載、2・3項目は開発協議・立会・パトロール等の記載、4項目は発掘調査の記録記載として新様式に切り替え作業を行なっている。

浪岡町としては独自に遺跡台帳の5項目に各遺跡の範囲の地番を記載している。また、遺跡の無断開発等を未然に防止する方法として小字の地番で遺跡か否かわかるように小字毎の地番

に遺跡名を記載したフロッピーを関係部署（企画調整課・農政課・農業委員会・建設課・下水道課）に配布する予定である。その他、浪岡町都市計画図（1／2,500）により等高線、沢、溜池、川、水路等で遺跡の範囲を特定し、その上に国土調査の成果品である地籍図を縮尺して張り合わせている。毎年5回の調査で20～30遺跡のパトロール調査を行なっているが、遺跡台帳に記載されている地図が古いものや手書きでおおまかに書かれている個所もあり、所在地・範囲を特定するのが難しかったことから携帯型ナビゲーションを導入し今回のパトロール調査から緯度・経度を記載している。

## 浪岡町文化財一覧

浪岡町所在 指定文化財一覧（平成13年9月現在）

### (1) 国指定文化財

番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理団体	備考	管理状況
1	史跡	浪岡城跡	1	昭和15年2月10日 追加：平成元年3月7日	浪岡町大字浪岡字五所・字前田 浪岡町大字五本松字松本	浪岡町	指定面積 136,300m <sup>2</sup>	一部史跡公園として供用
2	史跡	高屋敷館遺跡	1	平成13年1月29日	浪岡町大字高屋敷 館字野尻	浪岡町	指定面積 29,762.72m <sup>2</sup>	平成13・14年度に 公有化計画

### (2) 県指定文化財

番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 (管理者)	備考	管理状況
1	考古資料	亀ヶ岡式壺形彩色土器	1	昭和31年5月14日	浪岡町大字浪岡字細田197-2	平野良一		青森県立郷土館にて展示中
2	考古資料	亀ヶ岡式壺形羽状繩文土器	1	昭和31年5月14日	浪岡町大字浪岡字細田197-2	平野良一		
3	考古資料	亀ヶ岡式鉢形台付土器	1	昭和31年5月14日	浪岡町大字浪岡字細田197-2	平野良一		
4	無形民俗文化財	吉野田獅子(鹿)踊	1	昭和36年1月14日	浪岡町大字吉野田	吉野田獅子踊保存会		
5	彫刻	円空作木造観音菩薩坐像	1躯	平成2年8月3日	浪岡町大字北中野字天王21-2	西光院	昭和61年10月27日町指定文化財	
6	彫刻	円空作木造観音菩薩坐像	1躯	平成9年5月14日	浪岡町大字大糸迦字山田199-3	元光寺	平成5年4月27日町指定文化財	

### (3) 町指定文化財

番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備考	管理状況
1	天然記念物	源常林の銀杏	1	昭和55年4月28日	北中野字沢田107	浪岡町	高さ20.5m 幹囲6.47m	
2	史跡	伝・北畠氏墓所	2	昭和55年4月28日	①北中野字五倫75の2、②北中野字村元153の4	浪岡町教育委員会	指定面積 ①230.24m <sup>2</sup> ②330m <sup>2</sup>	
3	考古資料	土偶	1	昭和55年4月28日	浪岡字林本123	阿部幡彦	高さ8.5cm	中世の館で展示中
4	考古資料	波状文四耳壺	1	昭和58年11月21日	北中野字下嶋田2-3	古村 浩	高さ24.2cm	
5	絵画	石器土器図絵屏風	2曲 1双	昭和58年11月21日	浪岡字林本123	阿部幡彦		中世の館で展示中
6	絵画	石器図絵屏風・土器図絵屏風	半双 2個	昭和58年11月21日	吉野田字樋田61の1	木村徳栄		
7	建造物	旧坪田家住宅	1	平成6年12月8日	浪岡字岡田43	浪岡町		中世の館で管理
8	天然記念物	楊子杉	1	平成10年8月7日	五本松字羽黒平1	加茂神社 (羽黒神社)	高さ30m 幹囲4.64m	